

画する。

3 連携を内容的に充実させるための研究を推進する。

4 連携して指導した生徒の事前研究を計画する。

5 学校主導型から保護者の手による「方部別懇談会」の開催

### ◇中学校側の成果と今後の課題

#### 一 成果

(一) 中学校の訪問によって、高校入学校の生徒の様子を知ることができ、今後の中学校での生徒指導、進路指導についての見通し、改善に役立てることができた。

(二) 高校の授業公開や研究協議会等に参加し、高校の教育活動について理解を深めることができた。また、学習指導法の改善を図る意味からも大変よい機会となった。

(三) 合同の校外指導等を通じて、中高教師の人間関係が、より密接になった。

(四) 中体連行事への協力（高校教師の役員審判、施設貸与など）や高校生の母校訪問による部活動指導等で、高校への親近感を深めている。

#### 二 今後の課題

(一) 中・高連携を更に前進させるために、年間を通しての計画的な交流を図りたい。

(二) 中学校を交えての方部別保護者懇

談会を充実させ、地域ぐるみで取り組む生徒指導をめざしたい。

(三) 中学校として高校に生徒を送り出した後も、生徒を見守る姿勢でありたい。

### 規律ある

### 生活の指導

#### 一 会津農林高校

会津農林高校は、明治四〇年、農業自営者養成を目的に、河沼郡農学校として設立されたものである。以来七五年間、会津地方の農業教育の中心校として、地域社会に幾多の人材を送り込んでいる。

現在は、農業、家政など六科、生徒数約七〇〇名を有し、近代農業経営者にふさわしい人間づくりと、実践力を備えた産業人の育成を目ざし、全職員一丸となって努力しているところである。

#### 二 研究主題の設定

近年の急激な社会構造の変化は、農業高校に、多くのひずみをもたらしており、会津農林高校もその例外ではない。

入学志願者は、年々減少し、この数年募集定員に満たない状態が続いている。

それに伴ない、学習意欲に乏しく、目的意識の希薄な生徒が多数入学してくるのが現状である。このことが、生徒の生活、行動面にも反映し、その指導に苦慮しているところである。

このような状況の中で、生徒一人一人の社会的資質や行動を高め、自己確立を図る指導としては、(1)基本的な生活習慣と集団の規律を確立すること、(2)判断力と自制心を高めること、(3)集団の一員としての自覚を高めること、(4)高校生活への意欲を高めることなどが肝要である。その基盤となるのが、日常における規律ある生活であるという認識から、研究主題を「規律ある生活の指導」とした。

#### 三 研究の方針・計画・組織

##### (一) 研究方針

(1) 理論に流れることなく、実践的な研究とする。

(2) 指導の結果を常に評価し、指導の改善に役立てる。

(3) 教師の一方的指導に終わることなく、生徒会を頂点とする生徒の自主活動により定着を図る。

(4) 生徒の自主活動の推進にあたっては、結論を急ぐことなく、その過程を大切にす。

##### (二) 研究計画

当面する生徒指導上の課題として、次の六項目を取りあげ、全校的体制でその改善、充実に取り組むことにした。

- (1) しつけ指導の徹底
  - (2) 部活動の推進
  - (3) 交通安全のための「四プラス一ない運動」の推進
  - (4) 教育相談の充実
  - (5) 志学会(生徒会) 活動の推進
  - (6) 家庭との連携強化
- 第一年次は、意識調査により生徒の実態を把握した上で、生徒会の活動を通して、前記(1)、(3)、(6)に重点的に取り組むことにした。

##### (三) 研究組織

表3の通り、指導部内に実践項目に対応する六つの班を組織し、研究

